

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 講師

氏名 茅沼秀樹

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

獣医学部の臨床系教員として、小動物臨床における画像診断学の教育を主として行っている。

近年、獣医療領域で使用され、診断を行う画像診断機器の種類は多く複雑である。また、描出される画像は非常に詳細であり、多くの知識と経験を必要とする。これら画像診断機器を理解し、読影のための最低限の知識を教える責任があると考えます。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医放射線医学	獣医学科	必修	2	
小動物獣医総合臨床Ⅰ～Ⅲ	獣医学科	必修	5	
獣医総合臨床実習	獣医学科	必修	5	
小動物臨床実習	獣医学科	必修	5	
小動物病院実習	獣医学科	選択	6	
総合獣医学	獣医学科	必修	6	
動物内科看護学Ⅱ	獣医保健看護学科	必修	2	
動物外科看護学Ⅰ	獣医保健看護学科	必修	2	

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

獣医学部の臨床系教員として、小動物臨床における画像診断学の教育を主として行っている。

近年、獣医療領域で使用され、診断を行う画像診断機器の種類は多く複雑である。また、描出される画像は非常に詳細であり、確定診断を得る過程において極めて重要な役割を果たす。詳細な画像が取得可能であるが故、多くの知識と経験を必要とする。これら画像診断機器を理解し、読影のための最低限の知識を教える責任があると考えます。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

獣医学における画像診断学は、正常な動物の解剖学や生理学が基礎となり、各種疾患によって生じる病理学的変化を動物の体を傷つけることなく診断する学問である。そのため、正常な動物の構造や仕組みを取り扱う解剖学や生理学の知識があれば正常画像を理解することは容易である。また、正常像が理解できれば、各種疾患の異常像を知らなくても、正常ではない（異常である）ことに気付くことができ、画像診断上最低限の診断である異常所見の検出を漏れなくできるようになるものと考えている。以上から、解剖や生理学といった基礎系学問が、臨床系学問に直結し非常に重要な土台となること、画像診断学が決して難解な学問ではないことを理解してもらいたいと思っている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

獣医放射線学を学ぶ前に学習してきた解剖学的や生理学における各部位ごとの特徴と、画像上に現れる特徴をリンクしながら教えるように心掛け、画像に興味を持って取り組んでもらうことと、今までの学習してきた解剖学や生理学を自ら復習して、さらに深い理解が得られるよう講義を進めている。

(2) ICTの教育活用

無

画像診断における各種画像は、DICOMフォーマットと呼ばれるデジタルデータであるため、各種疾患症例のティーチングファイルを作成している。現在、症例数は増えてつつあり何らかの形での公開は可能である。研究室生においてはルールを厳格化することでクラウドを利用し公開することが可能と考えられるが、全ての学生に対して公開するフィールドが見当たらない。また、様々な疾患が閲覧できるように症例数を増やしていきたい。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

詳細な配布資料の作成、実際の症例写真を使用した読影実習の実施

(2) 学生の理解度の把握

B

実際の症例写真を使用した読影実習や病院実習での症例ディスカッション

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

答えを教えるのではなく、調べて理解するように促す

(4) 学生とのコミュニケーション

A

画像診断は感覚で診断する部分も多いため、実際の症例写真を使用した読影実習や病院実習での症例ディスカッションを対面で実施する。

(5) 双方向授業への工夫

A

実際の症例写真を使用した読影実習や病院実習での症例ディスカッション

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

国家試験に出るような典型的画像は、授業の配布資料にも入れ、講義で説明するようにしている。今後もより多くの典型的症例画像をアップデートするよう努めたい。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

配付資料の解説文を豊富にし、配布を行った。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

資料を充実させると学生が授業に参加しなくなる。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

授業の資料をできるだけわかりやすい写真にアップデートして行く。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組授業の資料をできるだけわかりやすい写真にアップデートして行く。復習できるようにする。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

特になし

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

今後もFDに参加する。またはオンディマンド学習にも取り組む。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

病院実習では、他の実習と比較して時間的制限が緩いので、学生との対話を重視し、動物や飼い主さん、現場での検査や治療を効率的に利用して教育に取り組んでいきたいと考える。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

特になし。